

Check

7-1.その他の取組結果とその評価

1) 環境上の緊急事態対応訓練

緊急事態の内容：工場：火災対応訓練（EA-4491附属書-3の検証）

実施場所、日時：本社工場、2019年9月4日 9：00～9：50

訓練内容：消火及び救護訓練

対応手順、実施要領：

①地震警戒宣言のアナウンス→自衛消防組織発動と避難開始

- ・すみやかに避難を開始し、所定の避難場所で部署毎に整列し待機する
- ・点検係は、火元・電源遮断等の確認と報告を行う
- ・搬出係は、非常持出品の確認と報告を行う

②消火訓練

- 1消火器訓練：オイルパン・一斗缶へ油を入れ着火し、消火器を使用して消火する
- 2消火栓放水訓練：消火栓放水活動を実施する。（2～3分程度放水）

③負傷者救護訓練

工場内・試験室で、倒壊による下敷きになった負傷者を救護する想定で実施する

- 1救助者は、近辺に応援を呼び担架、AED、救急車の手配を依頼する
- 2負傷者を介護し、担架に乗せ、防災対策本部の救護係に引き渡す
- 3救護係は、負傷者に対し救護を行う

参加者：本社勤務社員（216名）

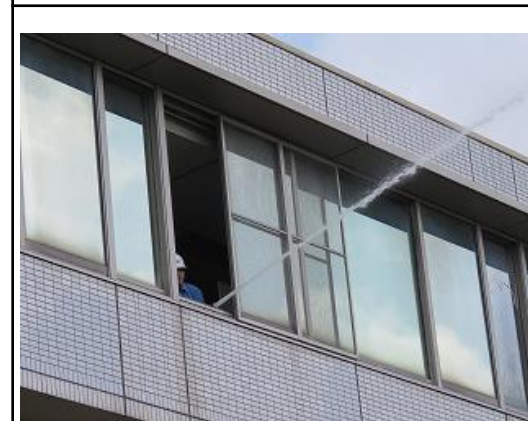
準備品：消火器（期限切れを使用）、消火ホース（各階及び指定場所に設置）、担架（本社棟・技術棟に設置）、ヘルメット（各自）、デジタルカメラ（総務）

訓練実施後の反省（対応手順、道具など改善案）：

手順、道具に問題なし

社員はあらかじめ担架、AEDのある場所を確認しておくこと

訓練の様子：（写真上段より）消火訓練、放水訓練、救護訓練




Check

2) 小型充電式電池のリサイクル

今までは社内で発生する使用済み乾電池は、全て産業廃棄物として処理しておりましたが、小型充電式電池の使用を推進し、また、使用済み小型充電式電池をリサイクルするため、一元回収を実施しております。小型充電式電池に使われている金属はニッケル、カドミウム、コバルトなどといった希少資源であり、リサイクルにより地球資源を有効的に利用することができます。事務局から「リサイクルマークが目印に！充電式電池は事務局へ！」と社内啓蒙し、収集活動を継続しています。（一般社団法人 J B R C 様小型充電式電池リサイクル協力者（回収拠点）登録）



 その他、小形シール鉛蓄電池があります。
(JBRCの取扱対象電池はヘッドホンステレオ、ハンディクリーナ、コードレステレホン、ビデオカメラ用に限る)

3) 発泡スチロールの資源化回収（㈱サツ川製作所様 E P リサイクルシステムの導入）

今まで購入品の緩衝材などに使用され集まっていた発泡スチロールは、全て産業廃棄物として処理しておりました。2012年8月より㈱サツ川製作所様（浜松市南区鶴見町13-1）が提供する E P リサイクルシステムを採用し、廃棄発泡スチロールの資源化回収を始めました。

産業廃棄物（廃プラスチック）を減容化し、また、回収した発泡スチロールは専用溶剤により溶解するため減容化されます。収集した発泡スチロール（ゲル状になった P S 樹脂）は㈱サツ川製作所様に買い取って頂け、その後、再生溶剤と固形 P S 樹脂に分離し、それぞれ再利用されます。



Check

4) 本社勤務社員の通勤事情調査

今年からの試みとして本社に勤務している従業員の通勤事情を調査してみました。

Q1. 主な通勤手段はなんですか？（公共交通機関、徒歩、自転車、二輪車、自動車）

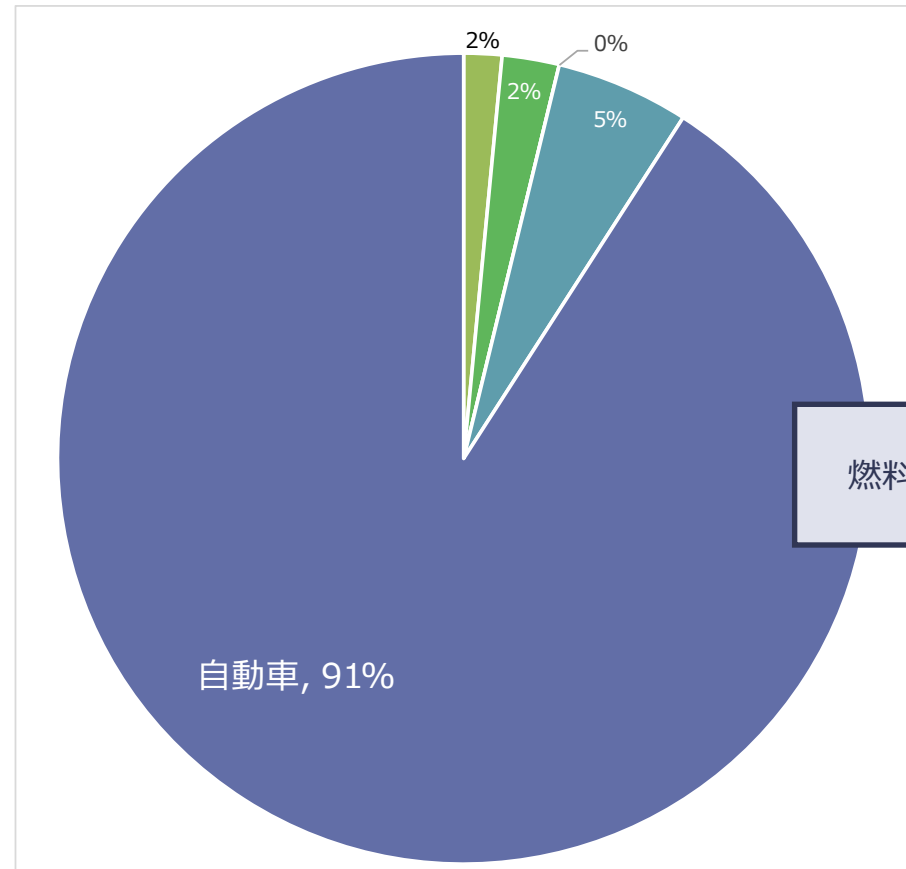
Q2. 自動車の燃料種は？：ディーゼル、クリーンディーゼル、ガソリン、ハイブリッド（PHV含む）、電気、水素



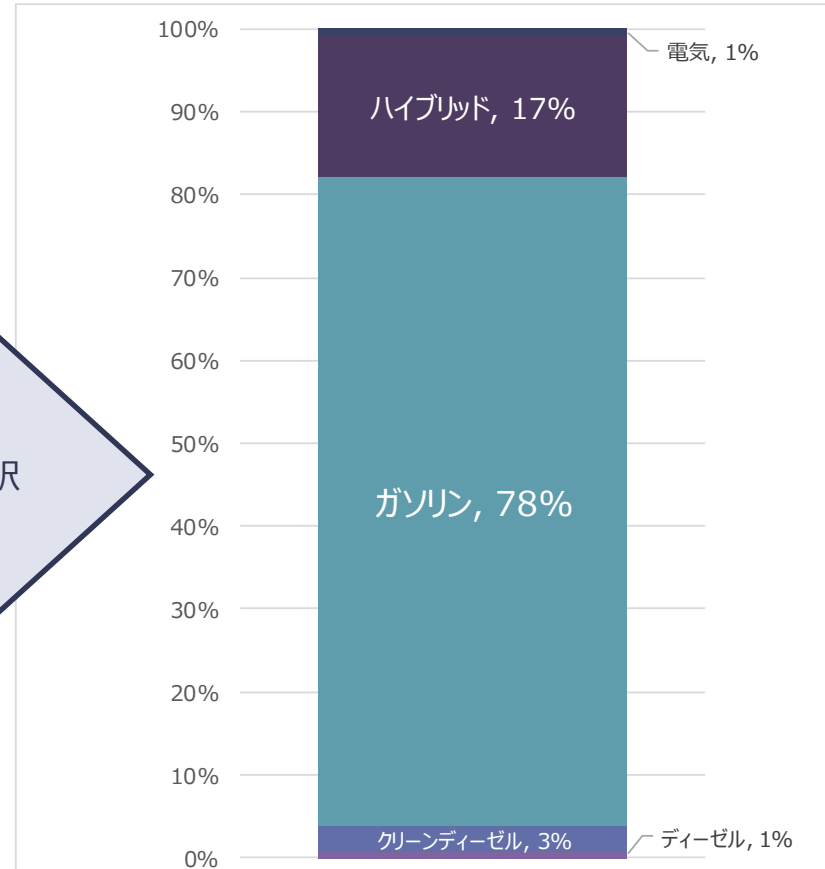
Break Time...

公共交通機関	徒歩	自転車	二輪車	自動車
2%	2%	0%	5%	91%

ディーゼル	クリーンディーゼル	ガソリン	ハイブリッド	電気	水素
1%	3%	78%	17%	1%	0%



燃料種別内訳



← 結果は左図の通り

初めての試みだったので、回答率は54%とやや低い結果でした。

結果は予想通りではありませんでしたが、自動車通勤が圧倒的でした。

しかし、ハイブリッド車が17%と意外と健闘していることに加え電気自動車が1%いる結果に驚きです。

来年も調査をしてみます！

ハイブリッド車、電気自動車、水素自動車が増えるかな？